

「The Final Battle 2013」



終盤の2連勝締め！ #35

早いもので3月に開幕した2013年度のK 耐久東海シリーズも最終第5戦となった。晩秋の愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークには、29チームが参加し今シーズンの有終の美を飾る戦いに臨んだ。

地元名産のみかんのような陽光が降り注ぎ、コースは小春日和だ。

「KNN」クラス（軽NAのノーマルクラス）

ここまでデッドヒートを続けてきた#14「ガレージイシヤマTTストゥディ」と、#100「HAC もらいものビート」のバトルもいよいよシーズン最終戦。第4戦の優勝で優位に立った#14 がそのまま決めるのか、はたまた波乱があるのか。新規参加の2台のヴィヴィオ（うち1台はビストロ）を加えた9台の戦いだ。

■予選

予選トップを獲得したのは#35「JK レーシングユーロビート」1'08.457、前戦優勝の勢いを持続。数字上タイトルの可能性はないがかき回す存在になるか。2番手には#410「RS TTCN today」が3戦ぶりの出場で1'08.496を記録。3番手は逆転タイトルを狙うランキング2位の#100「HAC もらいものビート」の1'08.952。4番手に#14「ガレージイシヤマTTストゥディ」1'10.019、有終の美を飾れるか。以下5番手#34「JK ガチャピントゥディ」1'11.020、6番手#717「Team Jatsun アルト」1'11.538、7番手#51「EUROU レーシングアルト」1'13.078、8番手は新規参加の#28「ヴィヴィオメロン」が1'13.642、9番手も新規参加の#29「ブラストヴィヴィオ」が1'14.705という予選結果。

■序盤

スタートから首位をキープするのは#35「JK レーシングユーロビート」、それを#410「RS TTCN today」が追いかける。タイトル争いの主役たちは#14「ガレージイシヤマTTストゥディ」が3番手で、その後ろ4番手#100「HAC もらいものビート」となっており序盤からヒートアップ。

5番手以降は#34「JK ガチャピントゥディ」、6番手#717「Team Jatsun アルト」、7番手#29「ブラストヴィヴィオ」、8番手#51「EUROU レーシングアルト」、最後尾#28「ヴィヴィオメロン」だが、#51「EUROU レーシングアルト」はマシンが不調のようなのが気にかかる。

■中盤

中盤戦で注目なのはタイトル争い。一時#100「HAC もらいものビート」がトップでリードしたが、セーフティカー中の追い越しでドライブスルーペナルティとなり後退。#14「ガレージイシヤマTTストゥディ」がトップ、それを#35「JK レーシングユーロビート」が追う。さらに#410「RS TTCN today」が3番手につけタイトル争い以外にも白熱。下位の方では新規参加組の#29「ブラストヴィヴィオ」、#28「ヴィヴィオメロン」も周回を重ねているが、#51「EUROU レーシングアルト」はリタイヤとなってしまった。



逆転タイトルならず #100



祝！初3位表彰台 #410



4位ながら貫録の連続チャンピオン #14



新規格最高位！ #717

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

ゴールまで残り1時間でトップにいるのは#410「RS TTCN today」88Lap、2位#100「HAC もらいものビート」も盛り返して88Lap、3位#14「ガレージイシヤマTTSTウディ」も88Lapとなっており僅差の争い。4位#35「JKレーシングユーロビート」86Lap、5位#34「JK ガチャピントウディ」は85Lap、6位#717「Team Jatsun アルト」83Lap、7位#29「ブラストヴィヴィオ」76Lap、#28「ヴィヴィオメロン」68Lapでゴールを目指す。

■最終結果

シーズン最終戦を制したのは、#35「JKレーシングユーロビート」。第4戦に続いての連勝で締めくくった。2位は#100「HAC もらいものビート」、奇跡の大逆転はなかったが2位は立派。3位表彰台は#410「RS TTCN today」、一時はトップを走行するなど大活躍で自信最高位の初表彰台をGet!

4位は14「ガレージイシヤマTTSTウディ」、勝ってタイトルというわけではなかったが、王者らしい安定した戦いぶりです。2年連続チャンピオンの栄冠に輝いた。5位は#717「Team Jatsun アルト」ランキングともども新規格最上位でフィニッシュ、今後楽しみなチームだ。6位は#34「JK ガチャピントウディ」、7位は#29「ブラストヴィヴィオ」、8位#28「ヴィヴィオメロン」までが完走。

■総評

3勝を記録し終わってみれば貫録の連続タイトルだった#14「ガレージイシヤマTTSTウディ」。#100「HAC もらいものビート」は第4戦の失速が響いたが4回の表彰台という堅実なレース運びが魅力、タラレバはないが一つ勝っておけば・・・対照的なのは#35「JKレーシングユーロビート」リタイヤか優勝かという、ある意味魅力的すぎる結果ゆえシリーズ3位に、耐久の面白さが表れているともいえる。

まだまだ旧規格勢が優位なこのクラスだが、#717「Team Jatsun アルト」や#51「EUROUレーシングアルト」、さらには#83「FLUX ミラ」など新規格勢の速さも増してきている、さて次なる刺客にも期待したい。



体は白! ? のガチャピン #34



初参加の”感想”は #29



こちらも初参加で”完走” #28



来季こそは! #51





ベテランの底力を見せていただきました #60



最終戦で逆転戴冠！！ #25



全戦表彰台！ 来季こそ悲願の中央へ！！



1Pに泣いたが戦いぶりはお見事！ #66

KNCクラス（軽NAのクロードクラス）

最終戦までもつれた混戦は、10Pの差の中に3チームという最高の舞台を用意した。優勝のある#66「IMWTウディ」と#25「アカミネコマル2トゥディ」の上位2チームに対し、優勝こそないが全戦表彰台の#225「ぐっちち松本車体ビート」という3つどもえの戦いに決着がつく。

■予選

予選トップはランクトップの#66「IMWTウディ」1'07.258、ここまま勝てば最高の結果だが、それをさせじとピタリ後ろにつけるのは#25「アカミネコマル2トゥディ」1'07.388。予選3番手は第3戦で優勝を飾っている実力派チーム#60「明智自動車スペシャルトゥディ」1'07.591でここまでが07秒台。

4番手は#225「ぐっちち松本車体ビート」1'09.550、タイトルのためには優勝が欲しい。5番手は唯一の新規格#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」1'09.835、そして予選最後尾は初参加の#13「愛知工科大学アルト」1'15.543、カリキュラムの一環としてのモータースポーツ参加の取り組みを行っている。アドバイザーにはスプリントの有力チームが付き初めてのレース参戦だ。

■序盤

序盤まずトップに行くのは#66「IMWTウディ」、勝てば文句なくタイトルが来まる。2番手は#60「明智自動車スペシャルトゥディ」、3番手は#25「アカミネコマル2トゥディ」でここまでが同一周回。#25が逆転のためには少なくとも#66の前でフィニッシュすることが必要、トップ奪取のチャンスがうかがう。

4番手は#225「ぐっちち松本車体ビート」、こちらが大逆転するためには優勝が絶対条件だ。5番手は#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」、6番手#13「愛知工科大学アルト」はレースにも慣れて徐々にペースが上がってきた。

■中盤

中盤にさしかかったころ、#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」がスピンセーフティカーの導入となる。この局面を利用してのピットインを消化しようとするマシンでピットレーンは大混雑。各チームのピットインが落ち着いた後の順位を整理すると、首位は#60「明智自動車スペシャルトゥディ」で65Lap、2位#225「ぐっちち松本車体ビート」64Lap、3位#25「アカミネコマル2トゥディ」64Lap、4位#66「IMWTウディ」、5位#13「愛知工科大学アルト」というオーダー。このままでは#66「IMWTウディ」がチャンピオンだが・・・

■終盤

終盤になって#25「アカミネコマル2トゥディ」がトップに立ち、#66「IMWTウディ」が4番手ということで、にわかに逆転タイトルの可能性が出てきた。ゴールまで1時間を残したところでの2台のLap差は7Lap、まだ義務ピットが残っているとはいえ、#66はこれ以上離されてはいけない。

3番手の#225「ぐっちち松本車体ビート」も隙あらば大逆転を狙おうと、必死に食らいつく。初レースの#13「愛知工科大学アルト」はラップタイムも安定してきて、耐久の走り方をしっかりと学んできている様子で、このまま完走まで持っていきたい。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

今シーズンの最終戦のトップチェッカーを受けたのは、#60「明智自動車スペシャルトゥディ」2戦ぶりの出場は2戦ぶりの優勝となった。2位は#25「アカミミネコマル 2トゥディ」、3位は#225「ぐっちち松本車体ビート」という表彰台。

#66「IMWTトゥディ」は追い上げ及ばず4位、5位は学生チーム#13「愛知工科大学アルト」が嬉しい初完走。

この結果、シリーズタイトルは逆転で#25「アカミミネコマル 2トゥディ」のものに。#66「IMWTトゥディ」は1ポイント差で涙をのんだ。

■総評

わずかに1ポイント差のチャンピオン決定という激戦のクラスだったが、内容も白熱。シリーズ3位の#225「ぐっちち松本車体ビート」は全戦表彰台で一つでも勝っていればと思わせるし、シリーズ4位の#60「明智自動車スペシャルトゥディ」は3戦の参加で2勝をあげ、もう一つあれば・・・といったところだ。

スピンからリタイヤとなってしまったが、#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」は新規格ながら開幕戦での勝利が印象的、また最終戦で初レースに臨んだ#13「愛知工科大学アルト」の頑張りも記憶に残った。若い人たちでも楽しめるモータースポーツの魅力を肌で感じてくれたことだろう。

さて来シーズンはどんな感動を見せてくれるのか今から期待したい。



青春の1ページに！ 思いは後輩へと #13



復活を期待 #81





見事に逆転で逆転タイトルを獲得



2P 差で悔し涙！ 来季こそは初タイトルへ



開幕戦以来の出場で今季初表彰台！



予選トップだったが惜しくも4位

KNOクラス（軽NAのオープンクラス）

このクラスも激戦、首位の#23「チームミニ」が、#38「デモリッションエグゼ」と3P 差で迎えた最終戦、どんな結末を迎えるのか。精鋭4チームが出場の濃いバトルが期待。

■予選

予選トップは、今回のエントリー名を「パーマン4ゴウトウディ」とした#223が1'04.443と4秒台前半をたたき出せば、ランクトップの#23「チームミニ」も1'04.832とこちらも4秒台をマーク。予選3番手は#38「デモリッションエグゼ」1'05.789と続き逆転タイトルにかける、4番手#910「CRAZYレーシングビート」で1'06.356。

■序盤

まず序盤は#223「パーマン4ゴウトウディ」が出るがドライブスルーペナルティで後退、変わって#23「チームミニ」がトップを奪う。一方前戦優勝で勢いに乗る#38「デモリッションエグゼ」は様子を見ながらうかがう展開。開幕戦以来の出場となった#910「CRAZYレーシングビート」も離されずについていく。

■中盤

中盤戦はタイトル争う#23「チームミニ」と#38「デモリッションエグゼ」の一騎打ち。今年繰り返された光景が最終戦もリピートされ、まさにデッドヒート。

■終盤

これも前戦同様最終スプリントに入って前に出たのは、#38「デモリッションエグゼ」同Lapで#23「チームミニ」がマーク、どっちも負けれないプライドの戦い。3位には#910「CRAZYレーシングビート」、4位#223「パーマン4ゴウトウディ」。

■最終結果

#38「デモリッションエグゼ」は#23「チームミニ」は同ラップながら優勝。#23「チームミニ」は48秒差で涙をのんだ。#910「CRAZYレーシングビート」は嬉しい今季初の3位表彰台、#223「パーマン4ゴウトウディ」は予選トップ、レースラップは最速を記録したものの速さを生かせなかったか。

■総評

毎戦僅差のバトルを見せてくれたこのクラス、終盤連勝の#38「デモリッションエグゼ」に栄冠が輝いた。#23「チームミニ」もチャンピオンにふさわしい戦いぶりを見せレベルの高さを見せつけた。来季この2強に挑戦するのはどのチームか、大いに期待したい。





2勝はお見事！ 無得点がなければ #93



さすがの開幕男！ 安定した戦いぶりで戴冠



1勝をあげシリーズ2位は立派！ #330



新旧オープンカー対決 #133

KTCクラス（軽過給機のクローズドクラス）

最終戦には8台がエントリーのこのクラス、今季ここまでコンスタントにポイント稼いでいる#392「Zammers ヴィヴィオ」が2年ぶりのタイトルに近づいている。それを#112「白須賀会カプチーノ」、#330「SiRiO カプチーノ」といったカプチーノ勢が追う。点数的には若干の余裕がある#392だが、何が起きるかわからないのがレースだ。

■予選

予選トップは#93「藤枝マリンダイビングアルト」1'05.197、無得点に終わった前戦のうっ憤を晴らす仕上がりがた。続く2番手はポイントリーダー#392「Zammers ヴィヴィオ」1'06.214、3番手に#112「白須賀会カプチーノ」1'07.039、4番手#330「SiRiO カプチーノ」1'07.156、5番手#133「SIT カプチーノ」1'07.362とカプチーノが続いている。

6番手#7「ナルミファクトリーアルト2号車」1'07.960、7番手#21「BJR ミリアヴァンツァート」1'10.045、8番手は#4「JTEKT シルバーコペン」1'11.931で決勝へとコマを進めた。

■序盤

序盤からペースを握ったのは#93「藤枝マリンダイビングアルト」、それを追いかけるのは#392「Zammers ヴィヴィオ」という構図。3番手を#330「SiRiO カプチーノ」と#7「ナルミファクトリーアルト2号車」が争っている。タイトル争いでは15Pのマージンを持っている#392「Zammers ヴィヴィオ」に若干の余裕が感じられる。久しぶり参加の#7「ナルミファクトリーアルト2号車」もまずまずのポジションで走行している。

■中盤

レース半ばを迎えても、流れをしっかりとキープする#93「藤枝マリンダイビングアルト」。レース中の最速タイムも04秒台に入れるなど速さも十分。一方#392「Zammers ヴィヴィオ」はしっかりと上位キープの作戦の模様。

中団では#112「白須賀会カプチーノ」、#133「SIT カプチーノ」、#330「SiRiO カプチーノ」が争う、同一車種の競り合いは見ごたえがある。#21「BJR ミリアヴァンツァート」と#4「JTEKT シルバーコペン」も遅れずについていきたいところ。

■終盤

終盤2時間半時点での順位は、#93「藤枝マリンダイビングアルト」が110Lapで首位キープ。途中義務ピットで首位を明け渡すシーンも見られたが、すぐさま首位に復帰しゴールを目指す。2位には#392「Zammers ヴィヴィオ」は108Lap、タイトルへ近づいているか。3位#330「SiRiO カプチーノ」が107Lap、4位#133「SIT カプチーノ」も107Lap、ここは表彰台をかけての争いが激化。

5位#7「ナルミファクトリーアルト2号車」105Lap、表彰台は少し厳しくなってきたか。6位#112「白須賀会カプチーノ」104Lap、7位#21「BJR ミリアヴァンツァート」102Lap、8位#4「JTEKT シルバーコペン」101Lap。

このまま#392「Zammers ヴィヴィオ」がポジションキープでいけば見事年間チャンピオンだが、ここはしっかりと集中力を高めたい局面。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

ゴールも間近に迫った終了 20 分前、#21「BJR ミラアヴァンツァート」がコーナーでコースアウト、赤旗提示となる。約 10 分後に再開となり全車再スタート。

最後まで首位を守った#93「藤枝マリンダイビングアルト」が今季 2 勝目、2 位には手堅いレースをした#392「Zammers ヴィヴィオ」が入り見事シリーズチャンピオンに。3 位はカプチーノ同士の争いを制して#330「SiRiO カプチーノ」が表彰台の一角に登った。

4 位は#133「SIT カプチーノ」、5 位#7「ナルミファクトリーアルト 2 号車」、6 位#112「白須賀会カプチーノ」、7 位#4「JTEKT シルバーコペン」でチェッカー。最後にコースアウトしてしまった#21「BJR ミラアヴァンツァート」も完走扱いで 8 位。

■総評

さまざまなエンジン形式、駆動方式、車種が入り乱れてのこのクラスはスーパーチャージャー搭載の#392「Zammers ヴィヴィオ」が 2 年ぶりの王者に振り返り、開幕戦優勝の後にはほぼコンスタントに上位でのポイント獲得と安定した戦いぶりを見せた。一方#93「藤枝マリンダイビングアルト」、2 勝+2 位一回ながらリタイア無得点が響き惜しくもシリーズ 4 位という結果。

しかしながらポイント以上に接近した戦いという印象が強く、カプチ、コペンのオープンカーや SOHC アルトといったマシンたちも大いに盛り上げてくれたシーズンだった、さて来年はどんな戦いを見せてくれるのか。



SOHC の F6 エンジンで頑張ります #7



シリーズ 3 位 #112



今回は軽量化でルーフを外した #4



最後は残念、復活を待ってます #21



ストリート向けのコンセプトという提案 #10



昨年の雪辱を晴らし見事タイトル！ #777



KTOクラス（軽過給機のオープンクラス）

2チームの決戦となっているKTO、最終戦には#192「DXLメビウスアルトワークス」が欠場。この時点でタイトルは#777「ナルミファクトリーアルト1号車」のものに。注目はHOT-K with KC テクニカが持ち込んだ新規格アルト。新規格のアルトバンをベースにK6DOHC スポーツタービン仕様でストリート向けのコンセプトながら、軽量ボディでサーキットの可能性を探るという提案。今後の新規格の拡充に向けてKチューンの老舗が手掛けたマシン。

■予選

予選トップを獲得したのは#777「ナルミファクトリーアルト1号車」が1'04.401で貫録の総合PP。注目の#10「KCテクニカアルトバンターボ」は1'05.643でまずまずのタイム。パワー一辺倒ではなく乗りやすさも重視しているとのこと。

■序盤

序盤から#777「ナルミファクトリーアルト1号車」が総合トップで周回を重ねる。#10「KCテクニカアルトバンターボ」もまずまずのペースでついていく。#777「ナルミファクトリーアルト1号車」はこのまま総合優勝でチャンピオンに花を添えたいが…

■中盤

1時間ほど経過した頃、他クラスのスピンアウトからセーフティカーランとなるが、その最中に#777「ナルミファクトリーアルト1号車」を異変が襲う。走行中エンジンが吹けなくなりコース上でストップ、そのまま回収となってしまふ。#777はピットで修復をすすめるが、エンジンは息を吹き返すことなくリタイヤとなってしまった。

■終盤

ライバルのいなくなった#10「KCテクニカアルトバンターボ」は、総合でもじわじわと順位を上げて、終盤にはトップに立つ。レース中の最速ラップは05秒台の後半にとどまるが、バランスよく走っているように見える。

■最終結果

HOT-K 岡田編集長もステアリングを握った#10「KCテクニカアルトバンターボ」が121Lapで総合優勝。新規格車の総合優勝は#32 暴馬 Projectに次いで2チーム目。

■総評

結局タイトルは#777「ナルミファクトリーアルト1号車」のもとなった。最後こそ残念だったが、王者にふさわしい走りで見事昨年の雪辱を果たした。ハイパワーターボチューニング車ということで、走らせにくいイメージのあるKTOだが、今回KCテクニカが持ち込んだアルトバンターボのように、ストリートとサーキットの間のようなコンセプトでも十分に楽しく、しかもある程度の成績が出せることがわかった。これは今後の新規格車のトレンドとなるかもしれない。新シーズンへの期待が膨らむ。

